

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

世の中にはつねに万物流転の法則がある 藤澤 武夫 (ホンダ初代副社長)

1. 「世の中にはつねに万物流転の法則がある」。ホンダの初代副社長・藤澤武夫が社内で説いて回ったという言葉だ。藤澤は創業者の本田宗一郎とともに、ホンダを世界で指折りの自動車メーカーに育てたことで知られる。万物流転のおきてがある限り、大きくなったものもいずれ衰える。つねに時代をリードする企業でなければ、その存在はあっという間に消えてしまうだろう。「希代の一番頭」と呼ばれた藤澤の戒めは、EV（電気自動車）シフトの波が押し寄せる日本の自動車産業界に響く。
2. ガソリン車に比べて部品が少なく、構造が単純なEVは異業種参入を促した。今後自動車の性能や価格を左右するソフトウェア領域の台頭も著しい。「このままだと本当に日本の自動車産業は沈没する」。あるホンダ幹部は強い口調で危機感を示す。
3. 完成車大手を頂点とする自動車産業ピラミッドもいつまで保てるかわからない。2020年後半からの半導体不足は、その崩壊の予兆とも受けとれる。半導体大手は完成車大手の意向どおりに、増産や価格交渉に応じてくれるわけではないことが明らかとなった。今年9月、ホンダは創立75周年を迎える。「アイデアは苦しんでいる人のみに与えられている特典である」。本田宗一郎は、逆境をアイデアの源泉とするようにと言葉を残した。今まさにホンダの存立意義が問われている。
(参考:「週刊東洋経済」2023年2月11日号)

経営者のための理念・哲学

士気をもって人生を歩む

1. 75歳以降は玄冬^{げんとう}である。「玄」には「黒い」の他に、「奥深い、玄妙」の意もある。この玄冬の時代をどう生きるか。安岡正篤師の言葉に耳を傾けたい。「老という文字には三つの意味がある。一つは年をとる。二つは練^ねれる。三つは考と通用して、思索が深まり、完成するという意味だ。老いるとは単に馬齢を加えることではない。その間に経験を積み、思想を深め、自己・人生を完成させてゆく努力の過程でなければならない」。
2. さらに言う。「古来医学の専門家は、人間いくら年をとっても、否年をとるほど、学問や芸術や信仰に情熱を抱き続けることが不老の秘訣であることを切論している」。そして、雄々^{おび}しい男子は晩年になろうとも志を捨てない。人間、この士気がなければならぬと安岡師は結語している。

(参考:「致知」2023年4月号)

経営者のための危機管理

「異論を唱える義務」が事件・事故を減らす

1. 政策研究大学院大学の黒川清名誉教授は、「日本は同質性が高く、異論を言いにくい社会だ」と指摘する。例えば、「社外から取締役を招いたところで、結局は経営者のお友達であることが多く、経営の方針に異を唱えることはほとんどない。このような会社はガバナンスに不備があると言わざるを得ない」。
2. 率直に物を言い合える組織づくりで参考になるのが米コンサルティング大手、マッキンゼー・アンド・カンパニーだという。「マッキンゼーでは、『異論を唱える義務』を社員の規範にしている。物事が決まりそうになった段階でも、考え直した方がいいと思えるような異論を出すことで、よりよい結論を目指している」。(黒川氏)。それが、大小さまざまな事件・事故を日本から減らすことにつながるだろう。

(参考:「日経ビジネス」2023年1月30日号)

古典に学ぶ

心がざわつく時は、相手から学ぶ時

1. 心をざわつかせる言動に出会った時、「あのようにはなるまい」と考えてみましょう。あるいは、「この人には、そうせざるを得ないこの人なりの事情がある」と思いを巡らせてみましょう。
2. 最初は、その視点を持つだけでOKです。それだけで、恵眼をもって相手を観ているといえます。そしてその時、相手はあなたの心を磨き、成長させる「親」になっているのです。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)